

地盤調査規格・基準委員会

平成21年度第4回 議事録

日 時	平成22年 1月29日 (金) 14:00 ~ 17:00			場 所	地盤工学会 会議室			
委員長	谷 和夫		幹事(岩)	長田 昌彦	×	幹事(土)	利藤 房男	
委員	別木 孝	×	WG1委員	松島 潤		WG1委員	林 宏一	
WG2委員	木村 英雄		WG2委員	水谷 崇亮		WG3委員	井尻 裕二	×
WG3委員	小松 満		WG4委員	平林 弘		WG5委員	小早川 博亮	
WG5委員	山本 裕司		WG6委員	中村 洋丈		WG7委員	浅井 健一	
WG7委員	藤崎 勝利	×	WG8委員	日比 義彦		WG8委員	藤根 拓	
WG12委員	吉村 貢		WG4リーダー	田中 洋行		WG4委員	林 宏親	

: 出席 : 代理出席 × : 欠席 : 未定

配布資料

委員会名	資料	資料の有無・番号
地盤調査規格・基準委員会	・ 前回議事録 (H21-11-5)	・ 資料21-4-1
ワーキング12 貫入式地盤硬度計	・ 新規基準：貫入式土壌硬度試験方法、針貫入試験方法 ・ 同上 解説 ・ 同上 英文	・ 資料21-4-2(1) ・ 資料21-4-2(2) ・ 資料21-4-2(3)
ワーキング4 標準貫入試験	・ JISA1219 標準貫入試験 規格	・ 資料21-4-3(1) ・ 資料21-4-3(2)
同上	・ JISA1220 オランダ式二重管コーン貫入試験	・ 資料21-4-4
地盤調査規格・基準委員会	・ 地盤調査方法と解説 改定計画書	・ 資料21-4-5
同上	・ 平成22年度以降のメンバー表	・ 資料21-4-6
基準部会	・ 基準部へのISO方針策定のお願 ・ 平成21年度第4,5回議事録 ・ ISO活動状況	・ 資料21-4-7(1) ・ 資料21-4-7(2) ・ 資料21-4-7(3)
会員からの質問と回答	・ 質問内容と回答	・ 資料21-4-8
TC182規格	・ TC182の規格一覧表	・ 資料21-4-9
国際規格の比較	・ 国際規格とJIS、JGS比較表	・ 資料21-4-10

審議事項

- (1) 前回議事録確認 (資料21-4-1)
 ・ 配布資料「ワーキング12 スウェーデン」は、「ワーキング12 貫入式地盤硬度計」に修正する。

- (2) 新規基準 再審議 (資料21-4-2(1)~(3))、解説・英文審議

指摘事項を2月中旬までに修正し、メール審議後、3/8の基準部会で審議

1) 土壌硬度試験法 (基準)

- ・ 用語「のり面、法面」が混在しているので、統一する。
- ・ 用語「切土、切り土」が混在しているので統一する。
- ・ 図1、単位、図タイトルはゴシックに修正。40-0.5、18-0.2は、ハイフンでなくマイナスに修正するとともに、プラスも併記する。
- ・ 4.4、2行、「78.4±1.96N」「78.4±2.0N」に修正する。
- ・ 5.1、2行、「測定面が雨で湿っている」「測定面が雨などで湿っている」に修正する。

- ・図2の注記は、5.4の文末にもっていく。
- ・5.5、1行、「5個の指標硬度」「5個以上の指標硬度」に修正する。

2) 土壌硬度試験法(解説)

- ・4.2、1~2行、道路土工指針が改定されているので、その中で硬度計の記載を確認する。
- ・参考文献を付ける。

3) 針貫入試験法(基準)

- ・用語「針の貫入長、貫入長さ」が混在しているので、「針の貫入長さ」に統一する。また、用語の定義に入れるべきである。
- ・用語「貫入力、貫入荷重」が混在しているので、「貫入荷重」に統一する。
- ・1、2行、「土~軟岩」「土および軟岩」に修正する。
- ・2、タイトル、「引用基準」「引用規格」に修正する。1行、決まった書き方があるので確認する。年号を削除すると、最新版を参照することになる。
- ・3、1行、「用語の定義」「用語および定義」に修正する。
- ・3.2、1行、「土岩中」「土・岩」に修正する。
- ・4.1.2、2行、「JIS規格品」、JISの番号を入れる。
- ・図2の注記は、4.2.4の文末にもっていく。
- ・5.1.1、1行、「曲がり。」「曲がり、」に修正する。
- ・5.1.2、1行、「測定面に正しく垂直に」「測定面に垂直に」に修正する。
- ・5.2.1、1~2行、ゼロ調整の文章の書き方を検討する。
- ・5.2.2、1行、「/分」「/min or /s」、赤本を参考に修正する。
- ・図3、縦軸タイトルPlは斜体に、(N)は不要。横軸タイトル、針貫入長さとし、Lが必要。NpのNIは斜体。
- ・6、1行、Npのplは直体。

(3) JIS改定審議 標準貫入試験(JIS A 1219)(資料21-4-3(1)~(3))

委員会での指摘事項を修正し、3/8の基準部会で意見を求める(平林委員参加)

- ・ISO対応は個別でいいのか、今回の標準貫入試験、機械式コーン貫入試験を通じて議論して欲しい(WG4委員長)
- ・エネルギーは考慮しないのか
ISO規格では参考となっている。今回は規格では取り扱っていないが、解説で取り扱うこととしたい。
- ・最近ではN値の研究者が少なくなった。ISOとJISの比較実験が今後必要である。
- ・JIS改定が及ぼす混乱を避ける工夫は無いのか。全国地質調査業協会のフォーラムなどで意見を聞いた方が良い。

全地連フォーラムは秋であるので時期が間に合わない。5月の全地連の「ボーリング分科会」で議論していただく 方向で検討中

- ・JIS規格は十分に審議されており、基本的な方針は承認する。
- ・試験方法で、付属書にとぶ所を明確にすること。特に、設計N値へとぶ所。
- ・ソリッドコーンの記載を解説に入れて欲しい。

(4) JIS改定審議 オランダ式二重管コーン貫入試験(JIS A 1220)(資料21-4-4)

委員会での指摘事項を修正し、3/8の基準部会で意見を求める(林委員参加)

- ・なぜ、土質定数が設定できないのか。
機械式は国際的にあまり使用されていないのが理由では。
- ・本規格は、規格番号は同じで、タイトルを「オランダ式二重管コーン貫入試験」「機械式コーン貫入試験」に変更する方針。
- ・5.2、6~7行、「十分に信頼できる相関関係が確立している場合」の表現に関し、別の表現ができないか検討する。
- ・表3、7.2.3、a)、「M1、M2またはM3」「M1、M2またはM4」に修正する。表の表現方法は、「×」ではなく、「」の表現に変更する。
- ・付属書A、表A.1、表の表現方法は、「×」ではなく、「」の表現に変更する。

(5) 地盤調査の方法と解説 改定計画書(資料21-4-5)

計画書は、谷委員長から基準部長あてとし、3/8の基準部会にあげる。

- ・方針として、新しい技術を入れるようにして欲しい。

- ・平板載荷試験は3種類あるので、統合する方向として欲しい。孔内水平載荷、プレッシャメータも同様。
- ・報告例を基準の参考に入れて欲しい。

(6) 同上 来年度メンバー(資料21-4-6)

- ・各ワーキングから現状の報告を受けた。最終メンバー表を作成して、幹事まで送付する。

ワーキングメンバー表は、3/8の基準部会で審議する。

報告事項

(1) 基準部会報告(資料21-4-7(1)~(3))

- ・基準部会からISO対応の具体策が出てくるのか。
年度内は難しい。
- ・ISO対応の検討ワーキングを作ったらどうか。

ISOはもともと国際部がやっており、海外での調査を踏まえてISO対応組織を提案し、それに基づきISO国内委員会を組織した。常設の委員会にぶら下げなかったのは、ジオテキや設計法があったためである。現在の地盤調査規格・基準委員会にぶら下げるのは、人選の問題もあり直ぐに対応はできない。現段階では、JIS規格のISO対応は、個別に具体的に進めていくこととする。

(2) 会員からの質問と回答(資料21-4-8)

- ・特に意見なし。

(3) TC182規格(資料21-4-9)

- ・特に意見なし。

(4) 国際規格とJIS、JGS比較(資料21-4-10)

- ・特に意見なし。